

(様式第11号) (第24条関係)

太陽光発電施設設置届出書

202 年 8 月 29 日

長野県知事 様

住 所 東京都中央区新川一丁目11番11号
東京冷凍新川ビル3階
氏 名 株式会社アドバリュー
代表取締役 藤田 早織
〔法人にあっては、主たる事務所の
所在地、名称及び代表者の氏名〕

長野県地域と調和した太陽光発電事業の推進に関する条例第24条第1項の規定により、下記のとおり届け出ます。

記

太陽光発電施設の設置の場所		長野県長野市大岡中牧字大谷地4345-2
事業区域の位置及び面積		2359.0 m ²
太陽光発電施設の合計出力		49.5 kW (太陽電池の合計出力 99.2 kW)
太陽光 発電事 業の内 容及び 実施予 定期間	発電電力の用途	■売電 □自家消費 設備ID ()
	設置工事着手予定日	2025年11月01日
	設置工事完了予定日	2025年12月30日
	運転開始予定日	2026年01月30日
	施設撤去予定日	2051年01月30日以降
太陽光発電施設の設置に関する計画		別添「太陽光発電施設設置計画書」参照
太陽光発電施設の構造に関する事項		地上設置型太陽光発電システムの設計ガイドライン等を参照の上、設計会社による構造（強度）計算を行い、架台について風雪に耐えられる強固なものとする。
景観保全のための措置の検討に関する事項		別添「景観の保全のための措置の検討状況書」のとおり
環境の保全のための措置の検討に関する事項 (※環境配慮区域に太陽光発電施設を設置する場合に限る。)		非該当

備考	連絡先 (電話番号) 03-5542-0377 (FAX番号) 03-5542-0665 (電子メールアドレス) solar_avc@addedvalue.co.jp
----	--

注1 該当する□内にレ印を記入すること。

2 「太陽光発電施設の設置の場所」欄は、届出に係る太陽光発電施設の事業区域が所在する土地の地番全て記載すること。

3 「事業区域の面積」欄には、小数第1位まで記載すること。

4 「太陽光発電施設の合計出力」欄は、小数第1位まで記載すること。

5 「発電出力の用途」欄は、再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（平成23年法律第108号）第9条第1項の規定による申請手続中の場合は、その旨を記載すること。

6 「備考」欄は、電話番号、FAX、電子メールアドレス等の連絡先を記載すること。

- (添付書類)
- 1 位置図
 - 2 事業区域図
 - 3 太陽光発電施設の配置図
 - 4 条例第11条の書面
 - 5 その他知事が必要と認める書類

(参考様式) (第9条関係)

太陽光発電施設設置計画書

防災対策等設置施設	☐ 調整池 ☐ 沈砂池 ☐ 排水設備 ☐ 擁壁 ☐ 管理用道路 ☒ その他 (素掘り側溝設置)		
特定区域の該当 ※該当するものは事業区域図 に明示すること	☐ 地域森林計画対象民有林 ☐ 地すべり防止区域 ☐ 急傾斜地崩壊危険区域 ☐ 土砂災害特別警戒区域 ☐ 砂防指定地 ☒ 該当なし		
環境配慮区域の該当 ※50 キロワット以上の事業 に限る ※該当するものは事業区域図 に明示すること	☐ 国有林・地域森林計画対象民有林 ☐ 国立公園・国定公園・長野県立自然公園 ☐ 長野県自然環境保全地域 ☐ 郷土環境保全地域 ☐ 水道水源保全地区 ☐ 水資源保全地域 ☐ 希少野生動植物の生息地等保護区 ☐ 鳥獣保護区 ☒ 該当なし		
工程表	別紙工程表のとおり		
工事車両の運行計画	想定される台数 (延べ) 80 台 (2 台×40 日) 運行時間 平日 9:00～17:00 経路 別添位置図に記入のとおり		
造成工事	盛土の有無	有 ・ ☐ 無	想定盛土量 m ³
	切土の有無	有 ・ ☐ 無	想定切土量 m ³
	事業区域外からの搬入量		— m ³
	事業区域からの搬入量		— m ³
排水処理設備の有無	有 ・ ☐ 無		
	排出経路	敷地内自然浸透/素掘り側溝	
送電設備	☐ 鉄塔 ☒ 電柱 ☐ 地下埋設		

(参考様式) (第7条関係)

景観の保全のための措置の検討状況書

項 目		検 討 事 項	配慮する内容
太陽電池 モジュール	全体	(1) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避ける。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないように、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめる。	該当しません。
		(2) 公共的な眺望点からの景観への影響に特に留意し、完成予想図の作成（シミュレーション）等を実施する。 ※検討で作成した完成予想図は添付すること	眺望点からは見えません。
	配置	(1) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させる。	離隔を確保します。
		(2) 施設の規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が連続することを避ける。	該当しません。
	規模	(1) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さは極力抑える。	積雪を考慮した高さとし、傾斜角とし、太陽光パネルの最低部分を1.5m、最高部分を3.8mとします。
		(2) 主要な道路や公共的な眺望点から見える場合は、太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑える。	該当しません。
	形態・ 意匠	(1) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせる。	配列は、南向きとし、一定の規則性を持たせます。
		(2) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周囲の山並み、建築物の屋根等と極力整合させる。	多雪地対策として、30度の傾斜角とします。
		(3) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路等から見えにくくする。	北側道路隣接箇所は、後退・フェンス沿い(内側)に植栽をします。

項 目		検 討 事 項		配慮する内容
太陽電池 モジュール	材料・ 色彩等	(1) 低反射のものを選択するか防眩処理を施す等、太陽光の反射を低減する対策を行う。また、素材の結晶が目立たないものを選択する。		低反射の太陽光パネルを使用します。
		(2) 黒又は濃紺を基本とし、低明度かつ低彩度の目立たないものとする。		濃紺とします。
		フレーム	(1) 低反射の素材を用いる。	低反射素材にします。
			(2) 太陽電池モジュールと同系色を用いる。	シルバーフレーム低反射を使用します。
附帯施設・ 附属施設		(1) フェンス等については、色彩、形態・意匠に配慮する。		茶系とします。
		(2) 電柱電線類については、極端に増加させないよう、低減に努める。		必要最小限とします。
		(3) 架台、パワーコンディショナー及び変圧器等の付属設備については、色彩等に配慮する。		色彩に配慮します。
敷地の緑化		(1) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発揮できるよう、根巻きを行った苗などの使用を検討するとともに、植栽間隔や苗木の大きさに配慮する。		そのような配慮をします。
		(2) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低木性の樹種を避け、地域に適した植生とする。		そのような配慮をします。
その他		(1) 施設の規模が大きく主要な道路や住宅地に反射光の影響が懸念される場合は、配置や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へい措置について検討する。		該当しません。
		(2) 施設及び敷地内は、定期的に保守点検を行うなど、適切に維持管理を行い、景観の保守に努める。		定期的に維持管理します。
		(3) 事業区域場所の景観行政団体の定める景観育成基準への適合を確認する。		太陽光パネル面積が500㎡以下のため、景観条例の申請非該当の旨、長野市まちづくり課に確認済です。

上記以外でも、設置箇所周辺の土地利用状況、周辺景観の状況に応じて、より効果的な配慮方法を工夫してください。

(参考様式) (第 19 条関係)

維持管理計画

作成日 2025 年 8 月 29 日

太陽光発電施設の設置場所	長野県長野市大岡中牧字大谷地 4345-2	
事業者名（法人にあつては、主たる事務所の所在地、名称、代表者の氏名）	東京都中央区新川一丁目 11 番 11 号 東京冷凍新川ビル 3 階 株式会社アドバリュ 代表取締役 藤田 早織 03-5542-0377	
保守点検責任者	氏名及び住所	株式会社アドバリュ 東京都中央区新川一丁目 11 番 11 号 東京冷凍新川ビル 3 階
	電話番号	03-5542-0377
合計出力	49.5 kW	
維持管理の内容	別紙のとおり	
施設撤去予定日（事業終了予定日）	2051 年 01 月 30 日以降	
損害保険の加入状況	■有 □無 (保険内容 自然災害 電氣的・機械的事故の対応)	
太陽光発電施設を撤去する際の対応	事業者にて撤去後、産業廃棄物処理業者に委託します。	
維持管理計画及び状況の公表方法	閲覧希望者へ掲示します。	

※標識に掲示することにより公表する場合には、標識の記載項目と同一のところは記載を省略することができます。

＜太陽光発電施設等の周辺において土砂災害等が発生するおそれがある場合に予定している措置の内容＞

太陽電池モジュール等の設備に強風による飛散を生じ無いか、豪雨による水害・土砂崩れ等の兆候がないか、排水機能に異常がないか、巡視を実施。

＜土砂災害等により太陽光発電施設の損壊が生じ、又は周辺地域の環境の保全に支障が生じた場合に予定している措置の内容＞

事故・災害が発生した場合には、迅速に状況を把握し、関係機関（経済産業省、県など）に連絡をする。

土砂の流出やパネルの飛散など周辺環境に影響を及ぼした場合は、速やかに撤去し、二次災害が起きないように対策を講じる。

<別紙>

太陽光を電気に変換する施設

対象	該当の有無	点検箇所	点検項目	点検方法	点検頻度	点検実施日
太陽電池アレイ	■	太陽電池モジュール	表面及び裏面に著しい汚れ、きず、破損がない。	目視	年1回	
			端子箱に破損、変形がないか		年1回	
			フレームに著しい汚れ、きず、腐食、破損がない。		年1回	
	■	コネクタ	破損、変形がなく確実に結合されている。		年1回	
	■	ケーブル	配線に著しい汚れ、さび、腐食、きず、破損がない。		年1回	
			配線に過剰な張力、余分な緩みがない。		年1回	
	■	電線管	破損、変形、汚損、腐食がなく正しく固定されている。		年1回	
	■	接地線	接地線に著しい破損、断線がなく正しく接続されている。		年1回	
			接続部に緩み、破損がない。		年1回	
	■	架台	基礎に著しいひずみ、損傷、ひびなどの破損が進行していない。		年1回	
			架台の変形、きず、汚損、さび、腐食、破損がない。		年1回	
			積雪による沈降、不等沈降、地際腐食などの影響がない。		年1回	
			ボルト、ナットの緩みがない。		年1回	
			固定強度に不足の懸念がない。		年1回	
接続箱	■	本体	著しい汚損、さび、腐食、破損、変形がない。		年1回	
			固定ボルトなどに緩みがなく確実に取り付けられている。		年1回	
			雨水、じんあい等の侵入がない。		年1回	
	■	配線	配線に著しい汚損、破損、きず、さびがなく正しく固定されている。		年1回	
漏電遮断	■	本体	著しい汚れ、さび、腐食、破損、変形などがない。		年1回	
	■	配線	配線に著しいきず、破損がない。		年1回	
パワーコンディショナー	■	本体	著しい汚れ、さび、腐食、きず、破損、変形がない。		年1回	
			固定ボルトなどに緩みがなく確実に取り付けられている。		年1回	
			コーキングなどの防水処理に異常がなく雨水などの侵入がない。		年1回	
			運転時の異常な音、振動、臭い、加熱がない		年1回	

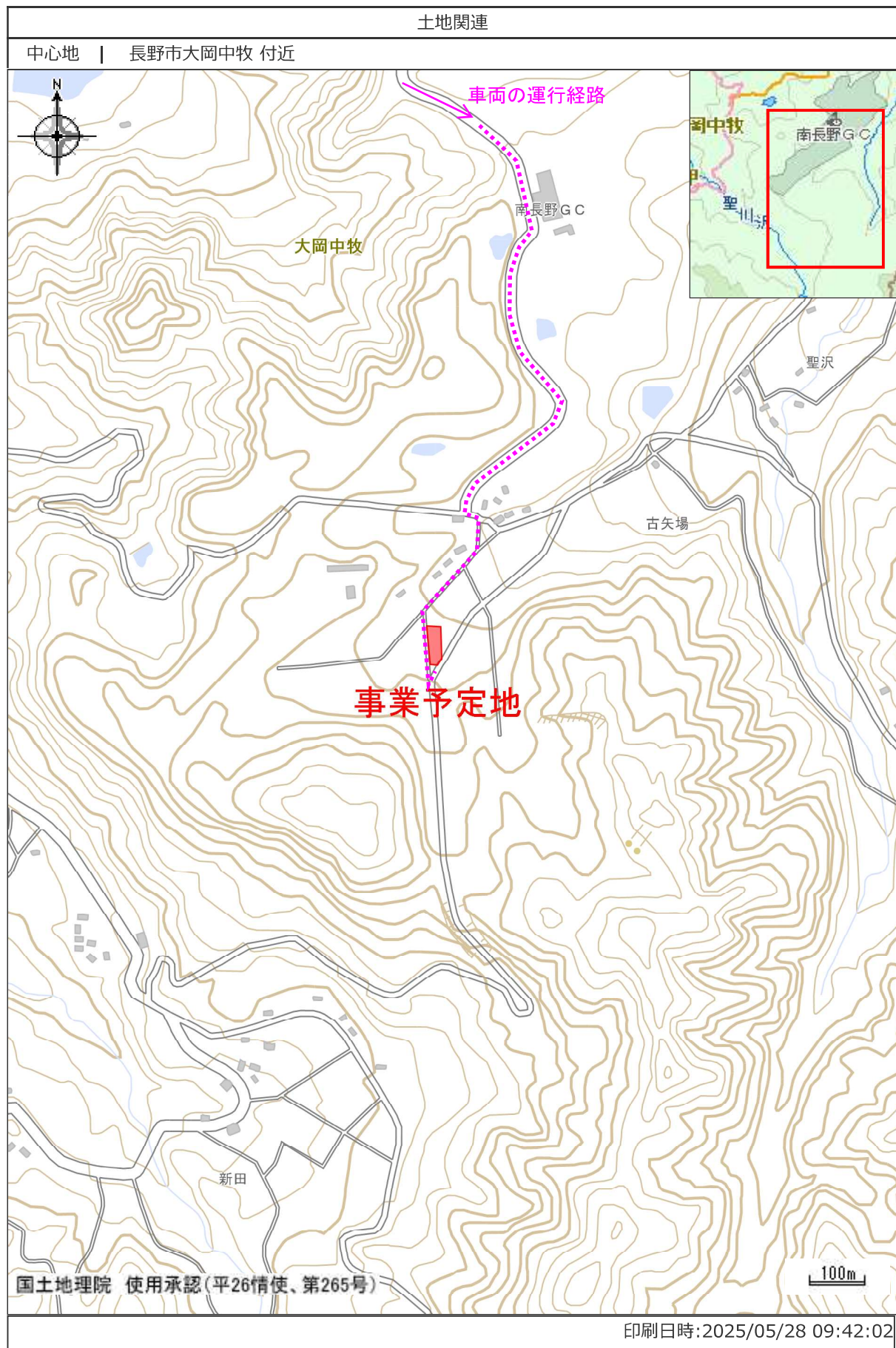
	■	配線	配線に著しい汚れ、破損、汚れ、さび、腐食、破損などがない。		年1回	
--	---	----	-------------------------------	--	-----	--

附帯施設

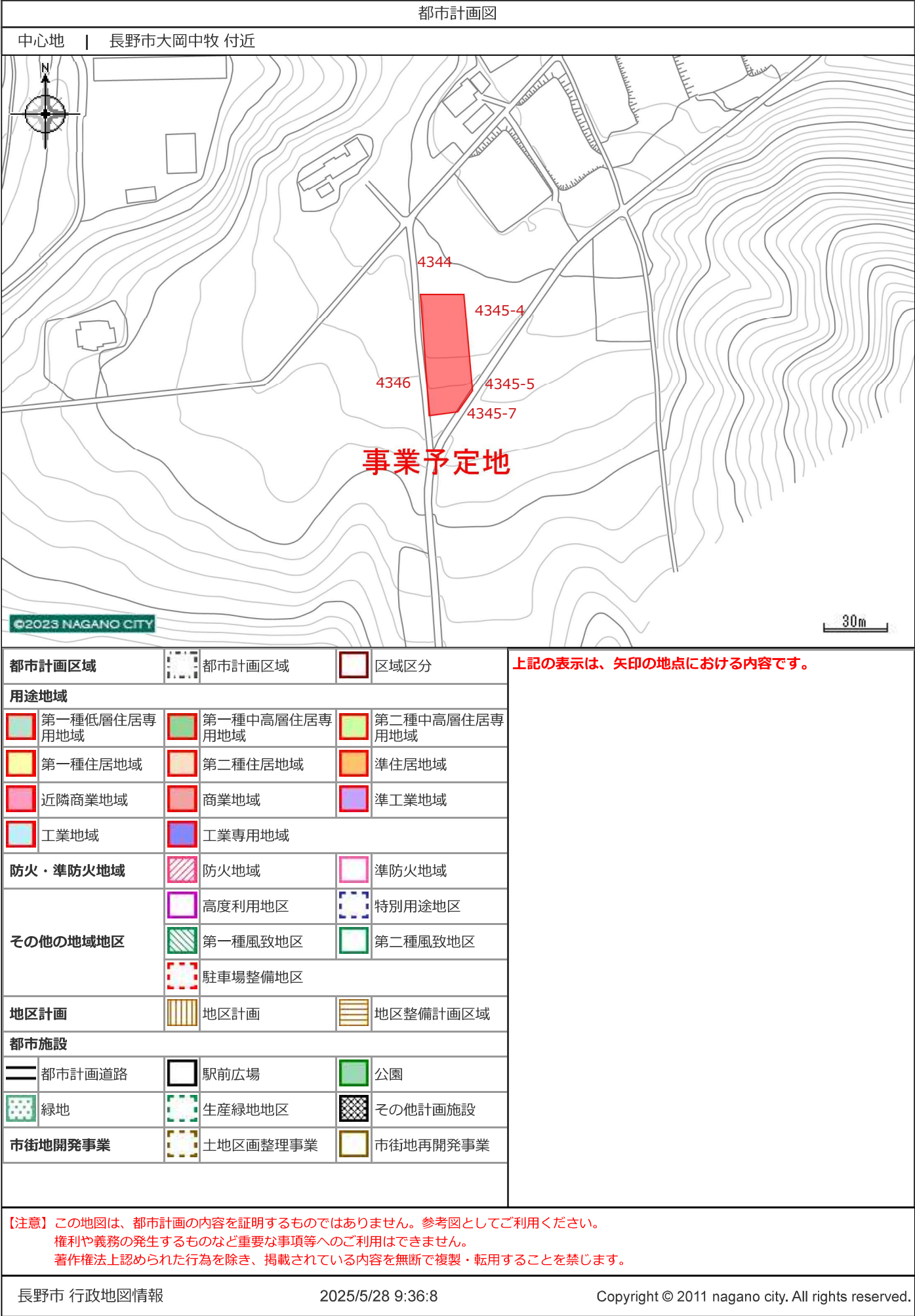
対象	該当の有無	点検箇所	点検項目	点検方法	点検頻度	点検実施日
法面・擁壁	□	切土法面	小段の沈下がない。	目視		
			排水溝の損傷がない。			
			目地にずれがない。			
			開口量の大きな亀裂が発生していない。			
			吹付工法等の剥離がない。			
			法枠工法等の破断がない。			
			はらみ出しの発生がない。			
			大量の湧水（濁り）がない。			
			崩落がない。			
			上部斜面からの土砂流出がない。			
	□	盛土法面	小段の沈下がない。			
			段差が発生していない。			
			排水溝の損傷がない。			
			法尻の崩落がない。			
			オーバーフローによる洗掘がない。			
			大量の湧水（濁り）がない。			
			湧水箇所の軟弱化がない。			
		擁壁	亀裂、割れが生じていない。			
			座屈、段差、傾斜がない。			
			つなぎ目にずれがない。			
排水設備	■	排水溝、枡	水路に落下物等のつまり、堆積がない。		年1回	
			亀裂、ずれがない。		年1回	
			破損がない。		年1回	
			排水設備外への漏水がない。		年1回	
調整池	□	堤体	上下流の法面に崩れ、亀裂、損傷、陥没、漏水がない。			
			堤頂に亀裂、沈下、損傷、陥没、漏水がない。			
			草木の繁茂がない。			

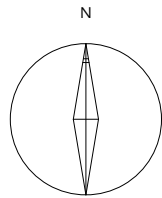
	☐	基礎	堤体の基礎に漏水、地山のはらみ出し、沈下、崩壊がない。			
	☐	余水吐き	導流水路に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			越流部に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			放流水路に亀裂、損傷、劣化及び継ぎ目の開きがない。			
	☐	放流施設	規定の放流先以外への漏水、土砂の流出がない。			
			呑口部に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			吐き口に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			油等の浮遊がない。			
	☐	貯留部	法面に崩れ、亀裂、破損、湧水がない。			
			天端に損傷、沈下、陥没、損傷がない。			
			貯留部低地に著しい土砂の堆積がない。			
			油等の浮遊がない。			
			下流河川（周辺）に洗掘、崩壊がない。			
防護柵、堀	■	フェンス（防護柵）	著しいさび、きず、破損、傾斜がない。		年1回	
	■	標識（事業計画、注意喚起）	視認性を損なう汚れ、文字の色落ち、擦れ、破損がない。		年1回	
	■	入口扉	開閉に異常がなく施錠に問題がない。		年1回	
進入路・管理道	■	通路等	周辺からの土砂の流入、堆積がない。		年1回	
			事業地周辺への土砂の流出がない。		年1回	
			雨水等による洗掘がない。		年1回	
			草木の繁茂がない。		年1回	
設置地盤	☐	舗装あり地盤	亀裂、剥離がない。			
			段差、傾斜がない。			
			空洞の発生（土砂の流出）がない。			
			隆起の発生がない。			
設置地盤	■	舗装なし地盤	周辺からの土砂の流入、堆積がない。		年1回	
			事業地周辺への土砂の流出がない。		年1回	
			雨水等による洗掘がない。		年1回	
			草木の繁茂がない。		年1回	

※施設の規模や立地、設備に応じた内容の点検項目を適宜追加・修正してください。



事業区域図





土塁

フェンス

土側溝

土側溝
20m × 1m × H0.5m

パワーコンディショナー

一号柱

出入口(幅1m)

64ヤ545

64ヤ544
仕様

設備名：長野市大岡中牧4345-2発電所

住所：長野県長野市大岡中牧字大谷地4345-2

発電出力：49.50KW
モジュール出力：99.20KW

モジュール：JINKO
型式：JKM620N-66HL4M-BDV
(2382 × 1134 × 30mm 32.40Kg)
枚数：160枚

PCS：HUAWEI
型式：SUN2000-4.95KTL-JPL1
台数：1台
8直2並列

PCS：HUAWEI
型式：SUN2000-4.95KTL-NHL2
台数：9台
8直2並列

架台：30度
スクリューは地質調査後メーカーにて選定
GL～モジュール下部1500mm
風速：30m 積雪：100cm

方角：南南東9度

フェンス：132m
H1500 茶色片扉 打込み式アンカー
高圧設備の場合、1800mm

64や544 仕 様		品 名								
形 式										
機 器	モジュール	図 番								
	パワコン									
設計/ 施工		A3 基準	尺 度	:	設 計		製 図		検 図	
		作成日 年 月 日								

工程表

事業名	長野市大岡中牧4345-2発電所	作成日	2025年8月29日
-----	------------------	-----	------------

[illegible]

完成予想図





(参考様式) (第11条・第13条関係)

事業基本計画説明状況書

2025年8月21日作成

事業者の住所・氏名 (法人にあつて、主たる事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)		株式会社アドバリュー 東京都中央区新川一丁目11番11号 東京冷凍新川ビル3階 代表取締役 藤田早織
事業太陽光発電施設の設置の場所		長野県長野市大岡中牧字大谷地4345-2 (設備ID)
説明会開催についての周知の方法とその範囲		周知の方法 ・ 郵送、メール 範囲 ・ 事業地境界線から 100mの範囲内に居住する者及び事業地に隣接する土地又はその上にある建物を所有する者 ・ 事業区域に係る行政連絡区の代表者 ・ 雨水浸透処理余剰分を計画区域外へ放流される場合は、放流先の施設管理者及び地元関係者
説明会の概要	日時	2025年7月22日 17時～18時
	場所	聖北生活センター
	参加者数	3名
	説明を行った者の氏名（法人にあつては、氏名及び役職名）	株式会社アドバリュー 安武明博 営業部 部長 他

注 1 説明会を 2 回以上開催した場合は、説明会ごとに作成すること。

(添付資料) 1 説明会で配布した説明資料

2 説明会で説明した内容、参加者の要望及び意見並びにそれらへの回答等について具体的に記載した議事録

2025年7月22日

長野市大岡中牧
4345-2 太陽光発電所
4339-1 太陽光発電所
設備設置事前説明会用資料

目次

1. 会社概要
2. 設備概要
3. 設備詳細
4. 工事概要
5. 設備稼働後
6. その他よくあるご質問
7. お問い合わせ先

1. 会社概要

商号 : 株式会社アドバリュー
本社所在地 : 東京都中央区新川1-11-11 東京冷凍新川ビル3階
設立 : 1974年3月
代表者 : 代表取締役 藤田 早織
資本金 : 8,000万円
事業内容 : 再生可能エネルギー、IT・通信、省エネ等の分野において、多種多様な商品を販売するとともに、海外への展開を行うなど、多角的に事業活動を推進

2. 設備概要

- 計画地① : 大岡中牧字大谷地4345番2/地目原野 (2,359m²)
計画地② : 大岡中牧字大谷地4339番1/地目畑 (1,828m²)
設備 : 低圧太陽光発電所
出力 (予定) : ①②共に パネル容量99.2kW、パワコン容量49.5kW
パネル枚数 (予定) : ①②共に 160枚



【図1：計画地航空写真】

2. 設備概要

完成予想図 :



①4345-2発電所



②4339-1発電所

【図2：完成予想俯瞰図】

3. 設備詳細

(1)法令・条例対応

- ・ 長野県地域と調和した太陽光発電事業の推進に関する条例、その他関連する法令・条例等に準拠して事業を進めております
- ・ 4339-1発電所については農地法第5条の転用許可手続きを行います。
- ・ 長野市の景観条例については、太陽光パネル面積が500㎡以下のため申請非該当となります

(2)使用機材

- ・ 太陽光パネルについては、一般社団法人太陽光発電協会（JPEA）が定めるガイドラインに基づき、廃棄時に適性な処理に資する情報が提供されているメーカーの製品を利用します
- ・ パワーコンディショナーについては、全て稼働した場合の騒音値が35dB程度となるものを使用します。音の感じ方の目安は「郊外の深夜（小さなささやき声）」～「閑静な住宅地の昼（ささやき声）」と非常に小さな音になります
- ・ 架台（太陽光パネルを支える金属製の構造物）については、JIS C8955に基づき、事業地の基準風速（30m/s）、垂直積雪量（100cm）から計算される風圧荷重、積雪荷重、地震荷重、また地盤調査の結果等を考慮し、メーカーにて耐久性を満たすと判断された製品を利用します

3. 設備詳細

(3) 景観・環境の保全のための措置

- 太陽光パネルについては、以下のような対策を講じます
 - ✓ 架台は多雪地仕様として、30度の傾斜角とする事で積雪荷重を軽減しつつ、景観も考慮の上、なるべく高さを抑えた設計とします
 - ✓ 敷地境界から太陽光パネル間は一定の距離を取って配置します
 - ✓ 太陽光パネルは、表面にARコートという反射を軽減する加工をしたものを利用します。色味は真っ青というより黒色に近く、色彩に配慮したものとなっております
- その他以下のような対策を講じます
 - ✓ 周囲を囲うフェンスは茶色とし、周囲の景観となじみやすい色を採用します
 - ✓ 外部との安全性を考慮して、フェンスから適切な距離を置いて太陽光パネルを配置します
 - ✓ 景観に配慮し、北側道路隣接箇所は後退・フェンス沿い(内側)に植栽をします
 - ✓ 本事業地は切土・盛土は行わず、現況地形をそのまま利用します
 - ✓ 事業地内に土側溝、土塁を配す事で、事業地外への雨水の流出を防ぎ、場内にて自然浸透させます

4. 工事概要

(1) 工事の流れ

①用地整地



②資材搬入



③杭打ち



④架台設置



⑤パネル設置



⑥完成

※発電所はフェンスで囲います



4. 工事概要

(2) 搬入経路

下図の黄色の線の通りとなります



【図3：搬入経路】

4. 工事概要

(3) スケジュール

- 工事期間（予定） : 2025年9月～11月
- 運転開始時期（予定） : 2025年11月

(4) 工事中の管理方法等

- 工事にあたって以下の対策を行うことで騒音・振動を予防します
 - ✓ 現地での工事車両乗入れについては、平日午前9時00分～午後17時00分までといたします
 - ✓ 使用する建設機械は作業内容に適した大きさの低騒音型のものを採用するよう努めます。作業時は建設機械の操作を丁寧に行い、移動が最小限になるよう努めます
 - ✓ 路面状況が悪い場所については徐行を心掛け、砂及びほこりの発生に注意します
 - ✓ 人通りが多い場合は徐行にて通行し、安全対策を行います
- 残材端材は適切に持ち帰り、処分いたします

5. 設備稼働後

(1) 設備の維持管理方法

- 遠隔監視装置を設置します。異常時はアラートが通知されるため、その内容を確認し、必要だと判断された場合は遠隔での操作、または現地の確認や設備の修理等を行います
- 定期的に点検を行い、電気特性/発電設備や防災施設の劣化状況/周囲の環境の状況を確認し、必要な部分に関しては補修を行います。
点検結果は記録し、保管します
- 年2回の草刈りを行い、景観の維持に努めます

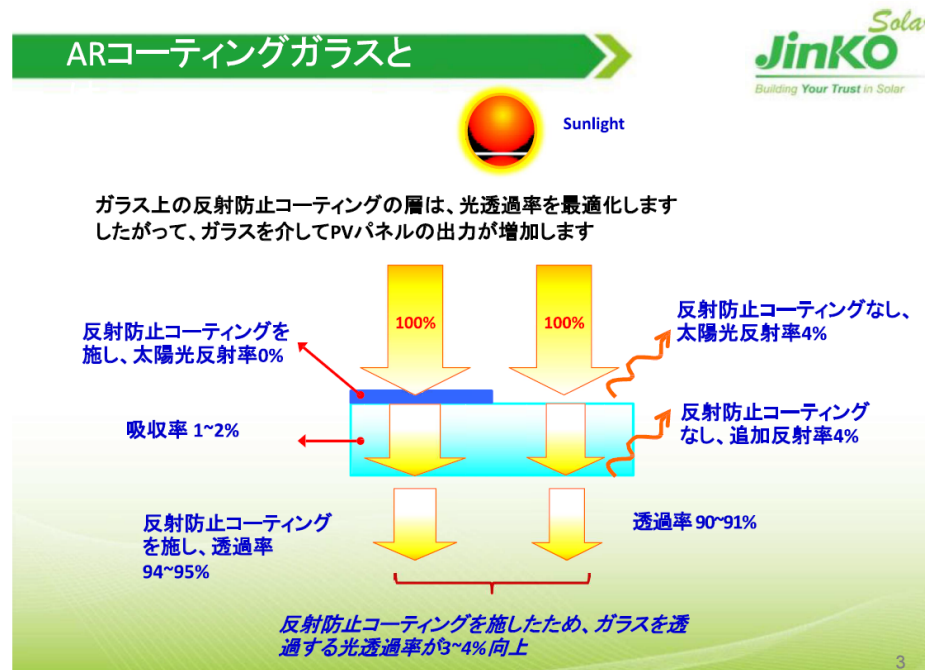
(2) 緊急時の対応

- 台風や洪水、地震等が発生し、発電所に被害が発生する恐れがある場合は臨時巡回等を行い、監視体制の強化を図ります
- 発電所には連絡先を明記した表示看板を入り口の見やすい位置に掲示し、周知を図ります

6. その他よくあるご質問

(1) 太陽光発電設備による反射の影響について

- 先述の通り、本事業にて使用予定の太陽光パネルでは、表面にARコートという反射を全体の8割ほど軽減する材質が使用されており、まぶしさを軽減することができます（下図参照）



【図4：ARコーティング】

6. その他よくあるご質問

(2) 太陽光発電設備による熱の影響について

- 太陽光発電設備による周辺の温度上昇は、太陽光パネルの「反射光」によって起こります
- 本事業で使用予定のARコートのある太陽光パネルは、周辺温度への影響も受忍限度を超えるものにはないと考えられます
- 上記に関しては、本事業の約20倍規模の太陽光発電設備での話になりますが、第3者調査の結果によると、実際の温度上昇は約0.064度と、体感できるほどの温度差は生じていなかったと想定されるということです

(3) 太陽光発電設備による電磁波の影響について

- 電界については、日本では「電気設備に関する技術基準」にて規制値を定めており、その値は国際的なガイドラインに比べて厳しい値となっております
- 磁界についても、国際的なガイドラインに基づき、50Hz・60Hzともに200 μ Tの規制値を導入しております
- 太陽光発電設備においては、パワーコンディショナーが7 μ T程度の磁界を持ちますが、上記基準や電気カーペット（12 μ T）と比べても小さな値であり、大きな問題は生じないものと考えております

7. お問い合わせ先

ご意見がある場合は、以下問い合わせ先までお願いします

株式会社アドバリュー

担当者：安武 明博

連絡先：080-5435-4728

メールアドレス：solar_avc@addedvalue.co.jp

長野県条例 住民説明会議事録

案件：長野市大岡中牧4345-2発電所

日時：2025年7月22日（火）17時~18時

場所：聖北生活センター

説明者：株式会社アドバリュー 営業部部長 安武明博 他

住民側参加者：3名

説明内容：説明会用資料に沿って説明

質疑録：主な質疑応答は以下の通り

Q	事業予定地の市道沿いの立木は伐採するのか、する場合の切った木の処理について説明して欲しい
A	伐採し、事業地内北側のスペースに積上げます
Q	事業地内の市道沿いの草も刈って貰えるのか
A	刈ります
Q	草刈りのタイミングはできるだけ6月と9月でお願いしたい
A	承知しました
Q	事業予定地から外への雨水流出は生じないか
A	南側から事業地内に流入する水対策として造成する土側溝に一旦貯留する為、一気に外に流出しない様になっている
Q	工事中、進捗状況の写真を組に提出して欲しい
A	承知しました
Q	県条例で提出している維持管理計画上の設備点検計画を確実に実施して欲しい
A	承知しました
Q	将来、事業者が万一倒産、代替わり等で設備が放置される事が起きないか心配
A	FIT新制度では設置10年以降から20年迄、廃棄費用の積立を義務とする仕組みが始まっています。本件は稼働後自家消費利用の検討もしており、その場合は、25年~30年の発電予定期間の間は稼働維持が必須になるので、その様な事は起きません。また現場に事業責任者、連絡先の看板を設置し、移転等があっても記載の更新を行います
Q	ケーブルの盗難はどの様な対策をするのか
A	幹線露出部の根巻及び保険付保
Q	雑草対策に防草シートは敷かないのか
A	雨水の浸透率が下がるのと、周囲の草刈作業時に草刈機による劣化したシート端の巻き込みが起き易い等のデメリットもあり、本件では使用しない
Q	除草剤の使用は避けて欲しい

A	除草剤は使用しません
---	------------